

令和8年10月1日

課名 農林水産局農業技術課

担当者 課長 月岡

内線 3556

課名 商工労働局バイオ・ヘルスケア産業課

担当者 課長 畝

内線 3350

広島バイオテクノロジー推進協議会 令和8年度広島バイオフィォーラムの開催について

1 要旨・目的

中東情勢の緊迫化や海洋ごみ問題により顕在化したプラスチックを取り巻く課題について、『微生物の力で実現するサステナブル社会「作る・分解する・安全に使う」』をテーマとしたフォーラムを開催し、原材料の確保、環境負荷の軽減、資源の再利用などの課題解決策として、バイオテクノロジーを活用した最新技術を紹介する。

2 現状・背景

広島バイオテクノロジー推進協議会（事務局：農業技術課）は、会員や県内事業者等への最新の技術情報及び交流の場の提供を目的に「広島バイオフィォーラム」を毎年開催し、情報交流、人材育成、開発技術の活用などに取り組んでいる。

また、県では令和4年度から「バイオエコノミー産業創出支援事業費補助金」により、会員企業の研究開発を支援している。

3 概要

(1) 実施主体

広島バイオテクノロジー推進協議会

(2) 実施日時

令和8年11月18日（水）13:30～17:15

(3) 会場

広島 YMCA 国際文化センター 403 会議室（広島市中区八丁堀7-11）

※オンライン同時開催

(4) 講演

ア 海洋生分解性ポリマーの開発と社会実装

イ PET 分解微生物の発見から拓くプラスチックバイオリサイクル

ウ 遺伝子組換え微生物の利用とバイオセーフティ技術

(5) パネルディスカッション

バイオテクノロジーによるサステナブル社会の実現に向けた話題提供・情報交換

4 予算（単県）

650 千円

5 広島バイオテクノロジー推進協議会について

県内の産学官の緊密な連絡協調により、バイオテクノロジーの積極的な開発、普及を図ることによって、広島県の産業振興と県民生活の向上に寄与することを目的に昭和60年に設立された。会長は江坂宗春氏（広島大学名誉教授）が務め、令和8年9月現在の会員数は153（企業・団体等79、教育機関24、国及び地方公共団体等22、個人28）。

広島バイオテクノロジー推進協議会ホームページ

<https://inst-prev-med.hiroshima-u.ac.jp/bio/>

広島バイオテクノロジー推進協議会 令和8年度 広島バイオフィォラム

テーマ：微生物の力で実現するサステナブル社会
「作る・分解する・安全に使う」

参加費
無料です！

日時

2026年11月18日(水) 13:30～17:15

会場

広島YMCA国際文化センター 403会議室
(広島市中区八丁堀7-11)

広島バイオテクノロジー推進協議会は、県内の産、学、官が連携してバイオテクノロジーに関する情報交流や技術活用等を推進するため、1985年(昭和60年)に設立され、昨年度40周年を迎えました。

会員は2026年(令和8年)9月現在153名で県内企業、法人、生産者団体、大学、高等学校等の教育機関並びに行政機関、他個人会員が入会されています。

今年度の「広島バイオフィォラム」は、私たちの暮らしに欠かせない「プラスチック」について、その環境負荷を解決する次世代の環境技術を牽引する3名の方に講演していただきます。

環境問題に関心のある方、持続可能な社会づくりに貢献したい方は、ぜひ本フォーラムにご参加ください！

講演 海洋生分解性ポリマーの開発と社会実装

13:50～14:35



株式会社カネカ
CO₂ Innovation Laboratory 所長

佐藤 俊輔 氏

ホルムズ海峡問題により、わが国の素材原料の多くが、未だ海外産化石資源であることが再認識された。サステナブルな素材産業の実現には、再生可能原料の利用と素材の環境循環が重要課題である。カネカでは植物油脂を原料とし、かつ海洋を含む自然環境中で生分解されるポリマー材料を開発、社会実装を進めており、本フォーラムではその開発状況を紹介します。

講演 PET分解微生物の発見から拓く

プラスチックバイオリサイクル

14:45～15:30



奈良先端科学技術大学院大学
先端科学技術研究科 教授

吉田 昭介 氏

世界初のPET分解・代謝細菌の発見を起点に、微生物がPETを分解し、代謝する仕組みの解明を進めてきました。本講演では、分解酵素や代謝制御機構に関する研究成果を紹介するとともに、微生物や酵素を活用した廃PETの再資源化への展開についてお話しします。

講演 遺伝子組換え微生物の利用とバイオセーフティ技術

15:30～16:20



広島大学大学院
統合生命科学研究科 教授

廣田 隆一 氏

遺伝子組換え微生物は、物質生産や環境浄化への活用が期待される一方、自然環境への拡散を防ぐ仕組みが不可欠です。本講演では、自然界にほとんど存在しない化合物に増殖を依存させることで、微生物を利用環境の中に封じ込める「バイオセーフティ技術」を紹介し、持続可能な社会実装に向けた可能性と課題を議論します。

パネルディスカッション

16:30～17:10

～ 司会進行 ～

広島大学大学院
統合生命科学研究科 教授

廣田 隆一 氏

サステナブル社会の実現に向けて、広島大学大学院統合生命科学研究科
廣田教授の司会進行により、講師の株式会社カネカ CO₂ Innovation
Laboratory 佐藤俊輔所長、奈良先端科学技術大学院大学先端科学技術研究科
吉田昭介教授と参加者が一緒にパネルディスカッションを行います。
会場参加の皆さまのご意見もお聞かせください。

情報交換会

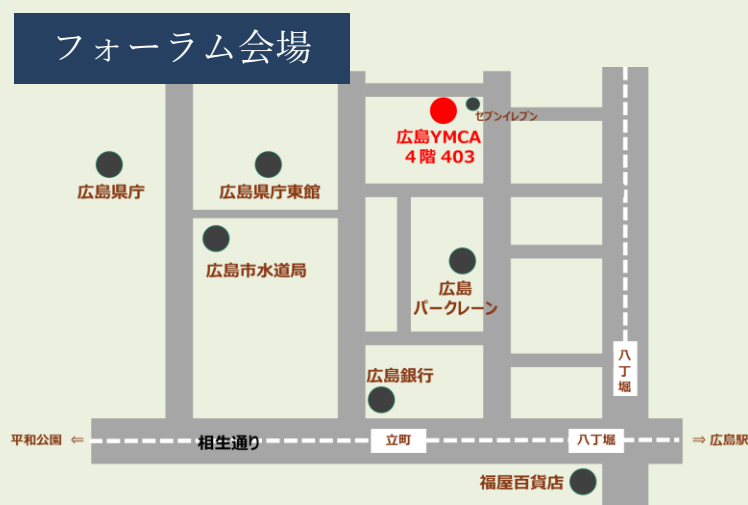
17:25～18:45

フォーラム終了後に**情報交換会を予定**しています。

折角の機会ですので、ご参加の上、講師の皆さまを始め、企業会員、大学会員等、相互で情報を交換して、新たな研究・業務連携に繋げるなど、ビジネスチャンス、有望な人材を確保していただけたらと思います。

会場はフォーラム会場となりますので、そのままご参加いただけます。

ぜひ、この機会に交流を深め、人脈を広げてください。



オンライン

・Zoomウェビナーでの参加となります。



- ・フォーラム前日に参加用URLをメールでお送りしますので、メールの受信をご確認の上、Zoom環境を整えた上で、ご参加ください。
- ・音声等聞き取りにくい場合もありますが、ご容赦ください。

申込先

2026年11月15日(日)までに、次のURLからお申し込みください。

https://apply.e-tumo.jp/pref-hiroshima-u/offer/offerList_detail?tempSeq=31307

ハイブリッド
開催です！

- ・会場とオンライン(Zoom)、どちらでも参加できます。
- ・申込URLから、どちらに参加されるか、ご入力ください。
- ・オンライン参加の場合、前日までに参加用URLをお送りします。

こちらのQRコードでも
申し込みできます ⇒



広島バイオ推進協では会員を募集しています！

➤ 会員は現在**153名**の県内企業、法人、生産者団体、大学、高等学校等の教育機関並びに行政機関他個人会員などの方が入会されています。

➤ 主な活動は次になります。

- (1) 先進的研究内容を紹介する「**バイオフィォーラム**」(設立初年度から実施)
- (2) 会員の研究成果を紹介する「**研究成果発表会**」(昭和61年度から実施)
- (3) 最新のバイオ関連情報をオンラインで提供する「**Web講演会**」(令和3年度から実施)
- (4) 会員間のコラボレーションを促進する「**コラボアイデア説明会**」(令和7年度から実施)
- (5) 高校生等を対象にした「**出張バイオフィォーラム**」(令和8年度から実施予定)
- (6) 会員間での技術連携、補助金活用や他団体のセミナー情報の提供など



お問い合わせ 広島県 農林水産局 農業技術課(事務局)

TEL 082-513-3559 FAX 050-3852-5534

Eメール nougijutsu@pref.hiroshima.lg.jp

HP <https://inst-prev-med.hiroshima-u.ac.jp/bio/>

広島バイオ

